

講演と対談

私のきのこ学

— 「後始末」を軸としてみる森の姿 —

日時：2024年9月7日（土）
14:00 ~ 16:00

会場：JT生命誌研究館

定員：80名

<予約不要/入場無料>

講演と対談：相良直彦（京都大学名誉教授・現大分県在住）

ご挨拶と対談：永田和宏（JT生命誌研究館館長）



細胞生物学者であり、日本を代表する歌人の一人でもある永田和宏館長は、実は、学生時代からの「きのこ好き」。きのこが結ぶご縁で、旧知の仲である菌類学の相良直彦氏をお招きして、今回、「きのこ学」の講演と、永田館長との対談を生命誌研究館の催しとして企画しました。森の生態系を支えている生き物同士の意外なつながりを「きのこ学」に学びます。



写真：堀り出したばかりのモグラの巣を手にする相良先生（2001年11月17日滋賀県にて、撮影：飯島正広氏）

尿素が開いた
未知の自然

イバリ（尿）シメジ

イバリ（尿）チャワンタケ

ネコのお墓にきのこ！

ハチの巣も消え去らなければならない
後始末には樹木も関わる

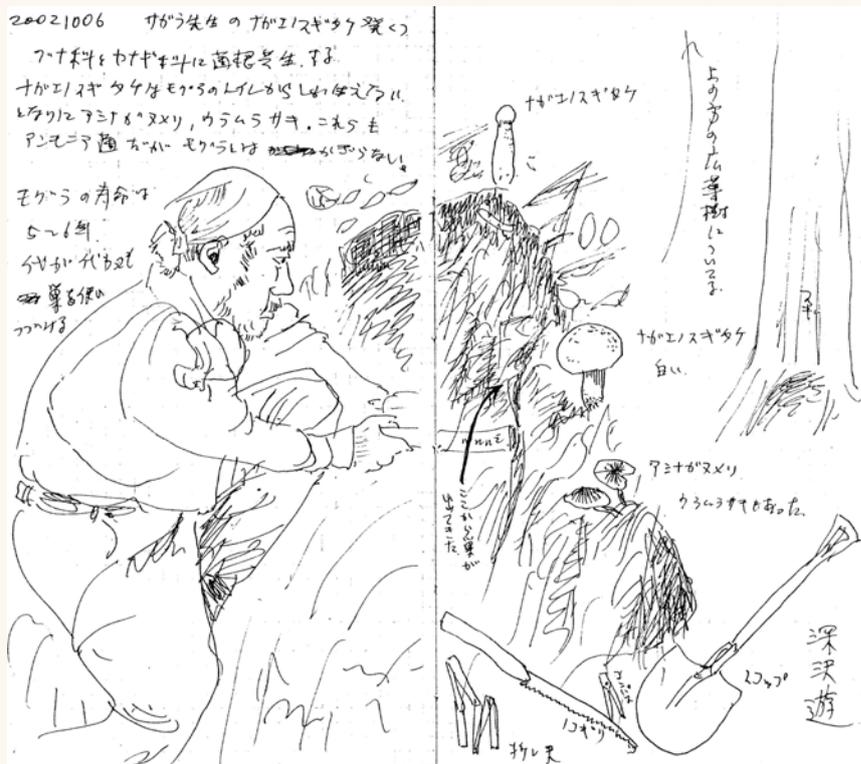
ナガエノスギタケとナガエノスギタケダマシ
モグラのせっちん（雪隠）からナガエノスギタケ！！

きのこ屋に、モグラ学への出番が来た
なぜ、モグラは森で長期定住が可能なのか？

「もぐらのせっちんたけ」を追ってヨーロッパへ

未知のことはどこに潜むかわからない

（相良直彦）



図：ナガエノスギタケを手がかりにモグラの巣を掘る相良先生（2002年10月6日滋賀県高島市朽木にて、深澤遊氏スケッチ）



1.



2.



3.



4.

1. 尿素施与区のイバリシメジ。
2. クロスズメバチの巣の分解跡に生えたナガエノスギタケダマシ。
3. モグラの「せっちん（排泄所）」に生えたナガエノスギタケ。
4. ミズラモグラの巣内の幼獣。

ライブ配信
は
こちら ▶



JT生命誌研究館

大阪府高槻市紫町1-1
開館時間：火-日 10:00-16:30
入場無料

JR京都線高槻駅より徒歩10分
阪急高槻市駅より徒歩18分

